

国内マグネシウム 2015 年需要実績／2016 年需要予測

一般社団法人日本マグネシウム協会

分類\年	2011	2012	2013	2014	2015 実績	前年比 (%)	2016 予測	前年比 予測(%)
ダイカスト	5,742	6,379	5,800	5,800	5,800	100.0%	6,000	103.4%
鋳物	92	55	70	70	70	100.0%	100	142.9%
射出成形	220	400	300	300	300	100.0%	400	133.3%
展伸材	1,104	584	760	700	750	107.1%	900	120.0%
その他合金		800	1,030	200	230	115.0%	300	130.4%
構造材小計	7,158	8,218	7,960	7,070	7,150	101.1%	7,700	107.7%
アルミ合金添加	19,616	19,485	18,800	21,000	20,800	99.0%	21,500	103.4%
鉄鋼脱硫	6,124	4,140	3,950	5,500	5,600	101.8%	5,500	98.2%
ノジュラー鋳鉄	2,306	2,327	2,340	2,725	2,200	80.7%	2,200	100.0%
チタン製錬	1,193	740	60	420	1,000	238.1%	700	70.0%
化学・触媒		1,860	1,800	1,800	2,200	122.2%	2,200	100.0%
添加材小計	29,239	28,552	26,950	31,445	31,800	101.1%	32,100	100.9%
防食その他	1,340	606	620	1,200	1,200	100.0%	1,200	100.0%
内需小計	37,737	37,376	35,530	39,715	40,150	101.1%	41,000	102.1%
輸出	2,583	642	330	575	1,158	201.4%	1,200	103.6%
総需要	40,320	38,018	35,860	40,290	41,308	102.5%	42,200	102.2%

<2015 年の需要実績>

- ①2015 年の国内マグネシウム需要量は、添加材向け、構造材向けの需要が共に約 1.1%の微増、輸出が倍増となり、全体では 41,308 トンで前年から 2.5%の順調な増加となった。
- ②マグネシウム合金を使用する構造材向けの需要は、鋳造関連が横這いの推移、展伸材、その他が若干の増加となり、全体では前年から 1.1%増加の 7,150 トンとなった。鋳造、展伸材に関する研究開発が活発に行われており、各分野においてマグネシウム合金採用へ向けた動きはあるものの、大きな回復には至らなかった。
- ③純マグネシウムを使用する添加材向けの需要は、アルミ合金添加、ノジュラー鋳鉄分野が減少したものの、チタン製錬向けが前年比 138.1%増の 1,000 トン、鉄鋼脱硫向けが同 1.8%増の 5,600 トン、化学・触媒向けが同 22.2%増の 2,200 トンとなり、全体では前回から 1.1%増加の 31,800 トンとなった。
- ④輸出は、アメリカ向けの合金地金の輸出量が大きく増えたことにより、前年から 101.4%増の 1,158 トンとなった。
- ⑤中国・天津で発生した爆発事故により、特にマグネシウム粉粒が関連する射出成形、鉄鋼脱硫、化学・触媒分野に影響が出ると思われたが、純マグネシウム地金や半製品等を輸入して国内で粉粒にするといった国内回帰の対応などにより、需要が減少することはなかった。

<2016 年の需要予測>

- ①2016 年の国内マグネシウム需要量は、全体で、42,200 トン前年比 2.2%増になるものと予測している。
- ②構造材向けの需要は、輸送分野をはじめとする各分野において、マグネシウム合金採用へ向けた研究開発等の成果が始まるものと見られることから、全体的に増加傾向に向かうと予測し、ダイカストが 6,000 トン、鋳物が 100 トン、射出成形が 400 トン、展伸材が 900 トン、その他合金が 300 トンといずれも増加、合計で前年比 7.7%増の 7,700 トンと予測した。
- ③添加材向けの需要は、アルミ合金添加で若干増加が期待されるものの、他分野は横ばいで推移するものと予測し、全体では 32,100 トン、前年比 0.9%の微増と予測した。
- ④防食その他及び輸出も横ばいで推移するものと予測し、共に 1,200 トンと予測した。